

立命館アジア太平洋大学への APM 3 回生編転入について

I. 【3 回生編転入：注意点】	P2
II. 【単位認定について】	P3

I. 【3 回生編転入：注意点】

3 回生編入学・転入学の場合、APU での標準的な在学期間は 2 年間です。以下の点を予め理解した上で、入学後の学修や就職活動についてよく検討してから出願してください。

入学した場合の専門教育科目の単位認定見込みについて

- ① 専門教育科目として最低 10 単位の単位認定がないと、2 年間での卒業は難しくなります。事前審査での単位認定見込み結果が 10 単位に満たない場合でも出願は可能ですが、卒業までに 2 年以上の時間がかかる可能性があること、学修以外の就職活動やサークル活動などに使える時間が限られることを理解した上で出願してください。
 - ② 3 回生編入学・転入学の場合、必修言語科目（英語基準学生の場合は日本語、日本語基準学生の場合は英語）の履修は必要ありませんが、希望に応じて履修することも可能です。ただし、言語科目の履修には講義科目の倍の学修時間が必要なため、2 年間で専門の学修と両立することは非常に難しくなっています。従って必修言語科目の履修を希望する場合は、2 回生編入学・転入学を薦めます。特に日本での就職を希望し、日本語科目の履修を希望する場合は、2 回生編入学・転入学が適しています。
 - ③ 2 年間での卒業を希望する場合、日本での就職活動やアルバイト・サークル活動など、学修以外の活動時間が制限される可能性があります。特に日本で就職活動を行う場合には、3 回生の第 2 セメスターから 4 回生（6～8 セメスター）の期間中は就職活動に一定の時間を割く必要があるため、2 回生編入学・転入学を薦めます。
- ① ～③についての詳細は以下の「II. 単位認定について」を確認してください。

II. 【単位認定について】

3 回生編転入 国際経営学部 (APM)

(1) 卒業要件について

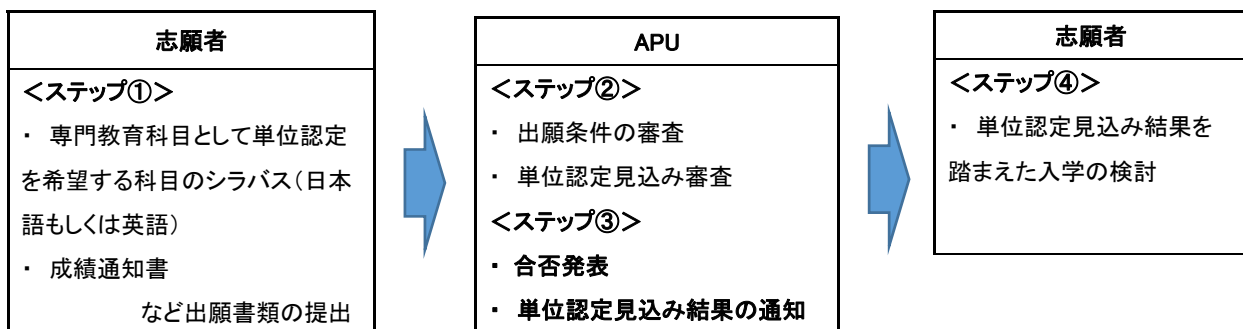
APM に 3 回生編転入で入学した場合、以下の卒業要件を満たす必要があります。

- ・ 編転入時に認定された科目を含め、卒業までに合計 124 単位以上を修得していること
- ・ 各科目分野の必要単位数を修得していること
- ・ 必要な APM 必修科目を全て修得していること

(2) APM への 3 回生編転入への志願にあたって

APM への 3 回生編転入を志願するにあたって、各志願者が前籍機関において学んだ内容がどの程度 **APM の専門教育科目として認定される見込みがあるか**を踏まえた上で志願を行うことが極めて重要です。単位認定は志願者ごとの前籍機関における学修内容に基づいて行われるため、志願者ごとに卒業に必要な必修科目や修得しなければならない専門教育科目の単位数等が異なります。また、APU での科目履修にあたっては、 Semester ごとに履修登録が可能な単位数の上限が定められているため、2 年間で卒業に必要な学修をどのように進めるかを慎重に検討・計画することも必要です。

出願までの大まかな流れは以下の通りです。



ステップ①：必要な書類の提出（志願者）

- ・ 経営・経済分野の科目を履修した場合には専門教育科目分野としての認定が可能な場合があります。専門教育科目分野として認定を希望する科目については「**専門科目単位認定申請書***」を記入の上、該当する科目のシラバスなど前籍機関における学修内容の分かるもの（日本語もしくは英語）を提出してください。あとは通常の手順に沿い、出願を行ってください。

*こちらからダウンロードしてください。 https://admissions.apu.ac.jp/material_download/

- ・ **APU で開講している科目の一覧は以下のリンクを参照してください。**これらの科目のシラバスは以下のサイトより確認できます。APU で開講されている科目以外でも専門教育科目分野として認定されることがありますので、APU で開講されている科目と内容が一致しない場合でも APM の専門教育科目として認定される可能性がある場合については「**専門科目単位認定申請書**」に記入の上、該当する科目のシラバス（日本語もしくは英語）を提出してください。

APM カリキュラムアウトライン：

https://admissions.apu.ac.jp/resource/load/documents/APM_Curriculum_Outline_JP.pdf

APU 科目のシラバス：<https://portal2.apu.ac.jp/campus/slbsskgr.do>

◆AACSB・EQUIS・AMBA・EPAS 認証校において経営・経済分野の単位を修得している場合◆

APM で開講している専門教育科目・共通教養科目での単位認定が可能な場合があります。上記認証校の経営・経済分野の学部にて学修している場合は成績証明書とともに認証校であることを証明する書類を提出してください。

ステップ②：単位認定見込み審査（APU）

- ・ 3 回生編転入の単位認定は **62 単位** を上限として専門教育科目分野もしくは共通教育科目分野としての単位認定見込み審査を行います。専門教育科目分野については提出されたシラバス等に基づき、専門教育科目としての認定単位の見込み審査を行います。本学の専門教育科目分野に相当しない場合、については共通教育科目として認定されます。
- ・ 必修言語科目については一括で認定を行います（英語基準の場合：16 単位、日本語基準の場合：24 単位）

<英語基準の単位認定>

科目分野		認定単位数	計
共通教育科目	必修言語科目(日本語)	16	62
	言語教育科目および共通教養科目	46*	
専門教育科目	専門教育科目		

<日本語基準の単位認定>

科目分野		認定単位数	計
共通教育科目	必修言語科目(英語)	24	62
	言語教育科目および共通教養科目	38*	
専門教育科目	専門教育科目		

* 志願者の学修内容に応じて単位認定

ステップ③：結果の通知（APU）

- ・ APU より合否結果、および単位認定見込み結果を通知します。

ステップ④：単位認定見込み結果を踏まえた入学の検討（合格者）

- ・ 単位認定見込み結果を踏まえ、APU への入学を検討してください。また、APU での大学生活を計画するにあたり、以下の点について留意してください。

<科目の種類と開講形態について>

APU の授業にはクォーター科目とセメスター科目があり、その多くは 2 単位科目です。クォーター科目は 2 ヶ月で完結し、セメスター科目は 4 ヶ月で完結します。クォーター開講の講義科目・演習科目は週に 2 回授業が行われ、セメスター開講の講義科目・演習科目は週に 1 回授業が行われます。言語科目については講義科目・演習科目の授業回数の 2 倍となります。

<履修登録の上限数について>

APU での科目履修にあたっては、セメスターごとに履修登録が可能な単位数の上限が定められているため、2 年間で卒業に必要な学修をどのように進めるかを慎重に検討・計画する必要があります。セメスターごとに定められた履修登録が可能な単位数は以下の通りです。

5 セメスター	6 セメスター	7 セメスター	8 セメスター
20 単位	20 単位	24 単位	24 単位

<授業以外の活動に要する時間について>

APUでの学修を計画する際には日本での就職活動やアルバイト・サークル活動など、学修以外で行う可能性のある活動に要する時間等も考慮しておく必要があります。特に日本で就職活動を行う場合には、第6～8セメスター期間中は就職活動に一定の時間を割く必要があります。

<言語教育科目について>

3回生編転入生は必修言語科目（英語基準学生の場合は日本語、日本語基準学生の場合は英語）が認定されているため、入学後に必修言語科目を履修する必要はありませんが、日本での就職を希望する場合には必修言語科目を履修することが可能です。しかしながら、言語教育科目は通常の講義科目と比較して1単位に必要な学修時間が2倍となっています。専門教育科目の単位認定状況にもよりますが、専門教育科目の認定単位数が少ない状況で必修の言語教育科目の履修を希望する場合は、2年間での卒業が厳しくなる場合もあります。専門教育科目の単位認定結果に関わらず、必修言語科目の履修を希望する場合は3回生編転入でなく、2回生編転入として志願することも検討する必要があります。

<APM 必修科目の履修について>

APMに編転入する学生は卒業までに必修となっている11科目(22単位)を修得する必要があります。このうち、10科目については入学後の各セメスターに大学側から自動的に登録されますので、上記の履修登録単位上限数も踏まえた上で、入学後の履修計画を立てることが必要です。

各セメスターに登録される必修科目は以下の通りです。

5セメスター	6セメスター	7セメスター
経営学入門 経済学入門 会計学Ⅰ マーケティング入門	金融論 ビジネスエッセンス 人材と組織行動のマネジメント 生産管理論 ビジネス法務戦略	グローバルマネジメント

なお、APMの必修科目をAACSB・EQUIS・EPAS・AMBA認証校で履修・修得している場合は、当該科目が科目名認定され、APU入学後に修得する必要はなくなります。

以下に単位認定のパターンを幾つか例示しますので、これらのパターンを参考にした上で、自身の単位認定見込み結果を踏まえ、出願を検討してください。なお、これらのパターンはAACSB・EQUIS・EPASS・AMBA認証校でAPMの必修科目を履修・修得していない場合です。

<入学後に必要となる各分野の修得単位数> ※ 専門教育科目分野の単位認定数に応じた入学後の履修計画の一例パターン①

◆英語基準(必修日本語16単位)、専門教育科目で20単位、共通教育科目で26単位の単位認定で入学した場合

	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター	合計
必修の共通教養科目(大学による自動登録)	2	-	-	-	20
必修の共通教養科目(学生自身が登録)	2	-	-	-	
必修以外の共通教養科目(目安)	4	4	4	4	
必修の専門教育科目(大学による自動登録)	6	10	2	-	42
必修以外の専門教育科目(目安)	4	4	8	8	
各セメスター合計	18	18	14	12	62

上限登録単位数	20	20	24	24
登録可能な残り単位数	2	2	10	12

パターン②

◆英語基準(必修日本語 16 単位)、専門教育科目で 10 単位、共通教育科目で 36 単位の単位認定で入学した場合

	5 セメスター	6 セメスター	7 セメスター	8 セメスター	合計
必修の共通教養科目(大学による自動登録)	2	-	-	-	10
必修の共通教養科目(学生自身が登録)	2	-	-	-	
必修以外の共通教養科目(目安)	2	2	2	0	
必修の専門教育科目(大学による自動登録)	6	10	2	-	52
必修以外の専門教育科目(目安)	8	8	10	8	
各セメスター合計	20	20	14	8	62

上限登録単位数	20	20	24	24
登録可能な残り単位数	0	0	10	16

パターン③

◆英語基準(必修日本語 16 単位)、専門教育科目で 2 単位、共通教育科目で 44 単位の単位認定で入学した場合

	5 セメスター	6 セメスター	7 セメスター	8 セメスター	合計
必修の共通教養科目(大学による自動登録)	2	-	-	-	4
必修の共通教養科目(学生自身が登録)	2	-	-	-	
必修以外の共通教養科目(目安)	0	0	0	0	
必修の専門教育科目(大学による自動登録)	6	10	2	-	60
必修以外の専門教育科目(目安)	8	8	12	14	
各セメスター合計	18	18	14	14	64

上限登録単位数	20	20	24	24
登録可能な残り単位数	2	2	10	10

以上